

令和2年7月3日

公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク  
運営委員会議事録(7月期)～Zoom 会議～

【出席者】(敬称略)

濱田、石丸、一政、岡部、片桐、木村、古池、佐藤、高木、葉木、畑、三澤、若笠  
事務局：天寺、濱口  
澤野推進委員会委員長

1. 濱田代表 挨拶

座間市では6月からコミュニティカフェ「リンクス」をオープンし座間ネットでは災害ボランティアの店を出店中。

市議会ではコロナ禍での災害時の質問が多く、避難所開設のシミュレーションを座間市の依頼で実施。避難所となる小学校で実験をしたところ通常の1/3程度の収容となった。

今後、地震など他の災害にも対応できるよう検証を行う予定。

7月度は石丸委員がリモート初参加ということもあり、各委員の現状報告も含めて自己紹介、一言挨拶を行った。

澤野推進委員会委員長 委員会報告

巻末添付\_「事業報告と今後の予定」、「7月のテーマ 風水害時の避難」のとおり。

2. 公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク報告

巻末添付\_「運営委員会議事」を参照

3. 報告・議案

① 寄付金報告

2020年＝金額 115,800円 件数16件(6/19振込記録まで)

災害対応積立金とSL活動金として使用。

② 九都県市合同防災訓練について(報告)2020年11月1日実施予定

1)埼玉県会場(川口市・幹事会場) 高木

巻末添付\_「第41回九都県市合同防災訓練(埼玉県会場)」を参照  
ブース出展を希望。出展案としてキャンプ用品を使った避難生活。

2)千葉県会場(野田市) 片桐

巻末添付\_「第41回九都県市合同防災訓練(千葉県会場)」を参照

主会場は防災フェアを実施。県からコロナ感染防止指示があり展示程度しかできないか。

千葉県ネットとして災害VC訓練をメインに考えている。

③ 「災害時でも温かいご飯を ～非常用炊出し袋を使ったレシピ集～」頒布開始

頒布価格 200円/1冊

事務局より 送料削減の為、ネットごとでまとめて購入も可能。

今回の頒布で感想等を聞きながら第2版以降も考えていく。

④ 「感染症予防ガウン（地域防災活動用）製作にかかる寄付金活動」について

本件は「募金活動趣旨書（案）」、「感染防止ガウン計算書(試算表)目論見書（案）」を各委員に配布のもと、話し合いを行った。

本ガウンの名称は運営委員会中で「感染症予防ガウン（地域防災活動用）」とした。

今回の募金活動を行うにあたっては公益社団の名前で行った場合に寄付者の地域へガウンが届かない可能性もある為、募金活動を行う地域ネット名称で寄付の呼びかけを行う。これは地域の力を使ってより多くの方から寄付をお願いできるきっかけになることが期待できる。

地域ネットでは寄附控除の仕組みがないため、地域ネットが紹介し、寄付先は本部とすることで寄附控除の対象とする。

**【ガウンの寄附、使用先】**

以下の場面で災害初動時に身を守る術として使用してもらおう。

- ・避難所の備蓄
- ・災害ボランティアセンターの備蓄
- ・介護施設等（社協を經由）

**【製作について】**

現在、座間ネットで作成工具作成、設置を行った。（現在 2 台目を作成中）

募金及び作成するネットには技術指導を行う。

→各ネット委員からは募金、作成をする前にサンプルを関係者へ見せてから検討したいとの声があがり希望のネットには座間ネットからサンプルを送る。

**【寄付の目的の説明】**

多くの方から寄付を募る為、防災活動等の経験がない人でもわかるように説明文を入れて説明する。

**【寄付金口座】**

熊本地震時に作成した缶バッジの寄付金の口座を使用する。

（公社）SL 災害ボランティアネットワークの寄付金口座と分ける。

4. 情報提供

葉木 SL

巻末添付\_「新型コロナ より響く”呼びかけ”とは??」を参照

**【次回の開催日】**

**2020年8月7日(金) 13時30分～運営委員会**

**開催方法：Zoom 会議**

**2020年9月4日（金）13時30分～運営委員会**

**開催方法：Zoom 会議**

通年8月は運営委員会を実施していませんが、今年度は3月、4月が中止、また感染症予防ガウン、九都県市合同防災訓練の案件を進める為、実施します。

## 2020年6月の事業報告と今後の予定 (6.4→7.2)

(7月3日/災害救援ボランティア推進委員会委員長 澤野次郎)

はじめに この間の主な出来事と成果(私的解説)

新型コロナウイルス下での避難 別紙

### 1、防災とボランティアをめぐる状況

#### 1-1 社会全体(危機管理または重要ニュース)

- ・ 05/25 緊急事態宣言解除
- ・ 05/26 休業要請の解除 (東京都は段階的)

#### 1-2 災害,大事故分野

国内 ア 地震 (気象庁発表で震度5強以上, 9都県市は震度4以上)

その1 千葉、茨城での地震の増加

- ・ 04/26 09:49 茨城県南部 M4.8 66 km
- ・ 05/04 22:07 千葉県北東部 M5.6 48 km
- ・ 05/06 01:57 千葉県北西部 M5.0 68 km
- ・ 06/01 06:02 茨城県北部 M5.2 97 km
- ・ 06/04 05:35 茨城件沖 M4.7 50 km
- ・ 06/25 04:47 千葉県東方沖 M6.2 30 km 震度5弱

その2 岐阜県飛騨地方、長野県中部 (県境) での地震多発

イ 火山等 (気象庁発表での噴火速報等)

- ・ 06/17 桜島の6/4爆発的噴火での説明の後日訂正
- ・ 06/25 浅間山 噴火警戒レベル2

ウ 気象災害 (土砂含) (内閣府掲載を主に対象)

- ・ 6/24 3か月 (7-9) 予報 猛暑予測

海外 ア 地震(USGC発表、日付UTC、原則Mw7以上か犠牲者多数)

日時	発生地	M	深さ	死者
・ 0618 1249	ニュージーランド	7.4	10 km	
・ 0623 1529	メキシコ南東部	7.4	26.3 km	6人

イ 火山等

ウ 気象災害[AFP]

- ・ 0601 以後 中国では複数の地域で、大雨被害が発生している。

エ その他

#### 1-3 防災行政等の動き

ア 政府

- ・ 防災担当

06/15 新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営のポイントについて

06/16 新型コロナウイルス感染症を踏まえた災害対応のポイント【第1版】について

- ・ 気象庁・環境省

06/16 熱中症警戒アラート (試行の実施) 7月1日より

イ 自治体

ウ 東日本大震災

- ・ 4/28 [復興庁]避難・転居者数 4万4346人前月比-2332人 4/09現在以後、発表なし。

エ 防災訓練等

1-4 災害ボランティア等の動き（全社協 被災地支援・災害ボランティア情報）

1-5 注目すべきメディアと書籍等

ア TV [NHK スペシャル等]

- ・ 放送大学 講師 林春男 毎週金午後9時 コミュニティがつなぐ安全・安心

イ 新聞他

2-1 社会貢献活動：災害ボランティア

※6月までの行事がほぼ中止に

A、災害ボランティアリーダー養成事業

ア S L 講座 10,970人 公認講座 2,774人 5/25

イ 本部主催のS L養成事業

- ・ [講座]立教大学・東京講座 2/22 以後中止で 5/25 で特例認定

ウ 大学等受託のS L養成事業

- ・ [講座]中止または延期

オ 他団体の研修等への協力(主なもの)

B、防災／減災啓発推進事業（主に首都圏開催）

C、S Lネットワーク／災害ボランティア活動報告

2-2 総合防災事業

A、シェイクアウト事業（防災訓練事業）

ネットを中心とした訓練なので中止になっていない自治体が多い。

☆ネット環境で対応できる事業として再注目

B、防災教育推進事業(普及協会等)

ア チャレンジプラン・内閣府共催事業

イ 防災教育事業

- ・ 7/5 防災ゲーム&クイズのネット開催

ウ 学校・団体等防災教育推進事業

C、防災研究事業

3、広報等

6月号発行

以 上

## 7月のテーマ 風水害時の避難

4月に緊急事態宣言が出て、接触を8割減らすためにステイホームがよびかけられた。5月26日の宣言解除後も、地域では高齢者を中心に、ステイホームの意識が続いていて、外出を控えている人が多いと考えられる。

風水害時の避難では、新型コロナウイルスの感染への恐怖と在宅避難の用語が安易に使われている状況があり、今年の水害においては避難をよびかけられても、避難しない高齢者が多くなることが危惧される。

### 命を守るための避難と災害後の避難生活は区別すべき

2020.6.22

新型コロナウイルス下での災害時の避難のあり方について、様々な混乱が生じている。

問題の基本は、命を守るための避難と災害後の避難生活を区別して考えるところにある。

#### 1, 命を守るための避難

命を守るための避難は、危険な場所から安全の場所への移動が優先される。感染を恐れて避難をしない、避難場所が提供できないとすれば本末転倒である。ただし、これを機会に従来の学校イコール避難場所という考え方は改める必要がある。もっと広域かつ多数の避難場所と自動車での避難スペースを急ぎ確保すべきである。

#### 2, 災害後の避難生活

災害後の避難生活では現状では柔軟な考えが必要だ。3密を避けると言っても都市部では初期段階では困難と考えるべきだ。これは通勤時の満員電車においてソーシャル・ディスタンスを求めるようなものだ。実行すれば電車に乗れない多数の乗客が駅に溢れ、より密な状況を作り出すからだ。

対策としては時系列の視点が重要である。やむを得ない混乱期から徐々に人と物を集中し、混乱を解消していくという従来のやり方のスピードアップを図ることである。ここでも既存の避難所の感染対策に止まらない、新たに多数の避難所、ホテル等を確保することが課題なのである。

求められるのは従来から言われていた避難についての課題を、これを機会にいかに整理し、解決するかにある。

以 上

## 新型コロナ より響く “呼びかけ” とは？

2020/4/22 NHK ニュースより 葉木

最近、お店のレジに並ぶ際、前の人と一定の距離を保つように、足元に立ち位置を表すテープが貼られているのを目にしたことはありませんか？ちょっとした目印を使って誘導することで密集を抑止しようという取り組みです。人々にちょっとしたきっかけを与えて、消費者に行動を促す「行動経済学」の理論、“ナッジ”。この理論を新型コロナウイルスによる外出の自粛や、手洗い・消毒などを促す呼びかけに活用する動きが各地で相次いでいるのです。



ナッジは、もともとは英語の NUDGE で、直訳すると、「ひじで優しく押したり、軽くつついたりする」という意味。それが転じて、ちょっとしたきっかけを

与えて、消費者に行動を促すための方法として、「行動経済学」という分野で注目の研究対象となっています。

紹介された事例の一つが、京都府宇治市で行われている“イエローテープ作戦”。宇治市では、市役所を訪れた人が手を消毒するのを促すため、ある工夫をしています。市役所の7か所で、入り口から消毒液が設置された場所までの間に、ことし3月から黄色のテープで矢印を描いて誘導しているのです。

この取り組みのきっかけは、入り口付近に消毒液を設置しても、果たしてどの程度使われているのかと職員が疑問に思ったこと。まず、市役所の地下にある入り口と、近くのショッピングセンターの2か所で消毒液の使用率を調べてみました。すると、訪れる人の10%程度しか消毒をしていないことがわかったのです。

そこで、消毒液を設置しているところまでチョークで矢印を書いてみました、しかしこれだと、人が矢印の上を何度も通ることで矢印が消えてしまいます。試行錯誤の上、現在のテープに落ち着いたそうです。

#### 宇治市 健康長寿部 藤田佳也部長

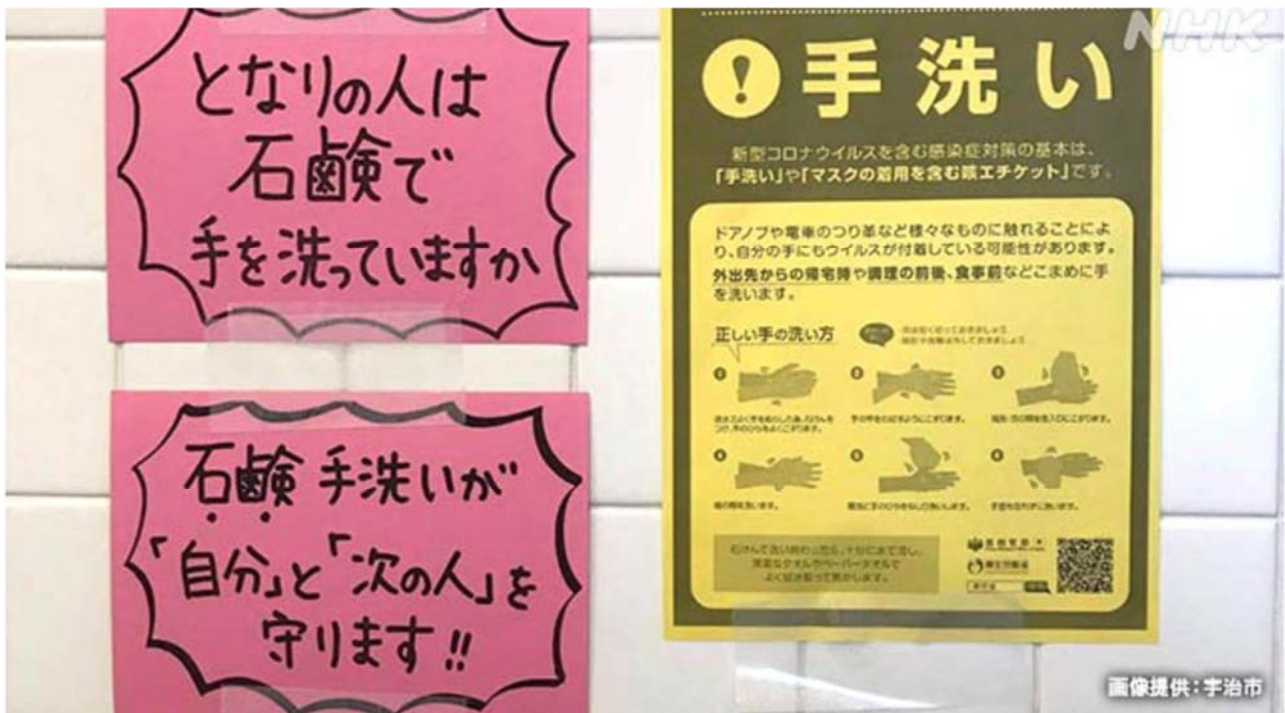
「新型コロナウイルスの対策にはせっけんでの手洗いと消毒が重要ですが、消毒液を設置しただけで消毒をする人が増えることにはなりません。感染する市民を1人でも少なくしたいという思いで、どうすれば、より多くの人に消毒をしてもらえるかを考えました」

宇治市によると、このイエローテープによる誘導で、消毒液を使う人は10%程度増加したそうです。イエローテープ作戦はネットなどで紹介され、兵庫県尼崎市や三重県松阪市など各地に広がりを見せています。

## 隣の人はどうしてる？

もう一つ、宇治市が力を入れているのが、せっけんでの手洗い。トイレの壁には、ピンク色の紙に手書きで「となりの人は石鹼で手を洗っていますか」「石鹼手洗いが自分と次の人を守ります！」というメッセージを書いて貼っています。

「手を洗いましょう」という直接的な呼びかけよりも、「周りが手を洗っている」という“行動”を示して“あなた”に呼びかけます。



宇治市 健康長寿部 藤田佳也部長

「最初は、メッセージをきれいに印刷して貼ろうかという案もありましたが、手書きで、さらにピンク色の紙にすることで、おっ！と思わせて、より効果をねらうことにしました。館内を清掃している業者によると、以前は2日に1回程度、液体せっけんを補充していたものが、今では半日に1回、補充が必要になっているようです」



海外では？



ニュージーランド警察のツイッターへの投稿

(史上初、テレビの前でゴロゴロしているだけで人類を救える)

## 試してみませんか？オンライン帰省

こうしたナッジの取り組みについて、行動経済学が専門で、新型コロナウイルスに関する国の専門家会議に提言も行っている大阪大学大学院の大竹文雄教授は、高く評価しています。

### 大竹教授

「感染対策に関する知識が普及しても、全員が守れるわけではありません。行動を変えてもらうには、習慣を変えなくてはいけません。ダイエットが健康にいいという知識を得たとしても、全員が運動や食事制限をできるわけではないのと同じ

です。自然にダイエットできるような環境を作ったり、メッセージを伝えることが大事なのです」

## 大竹教授

「『〇〇をやめよう』という禁止のメッセージは、損失をイメージさせ、逆効果です。特定の行動を取るように説得するよりは、その行動がいかに関員のためになるかを明確に言うほうが効果的です。ナッジは、あくまでも本人がよりよい選択をするよう導くものであって、強制的に従わせるものではありません」

そのうえで大竹教授は、例年であれば多くの人が旅行や行楽に出かける大型連休を控え、次のような呼びかけを国の専門家会議に提案しました。

## 大竹教授

「大型連休に向けては『オンライン帰省なら、みんな安心』『ビデオ通話でオンライン帰省』『試してみませんか？オンライン帰省』という呼びかけが有効だと考えています。自分のことだけ考えている人のほうが目立ちやすいですが、多くの人は周りの人のことを考えています。利他的にふるまったほうが得だ、尊敬されるという理由から利他的にふるまう人も多いですが、それでもいいのです。企業もこの際の企業イメージを上げておくほうが得だと判断すればやるでしょう。この流れが大きくなると、社会は変わります」

外出の自粛が長期化することで、いわゆる“自粛疲れ”も懸念されますが、大竹教授は今後の課題について、人々に、ある「覚悟」が必要だと指摘しています。

## 大竹教授

「課題は、外出自粛が長期的に継続できるようになるかです。リモートワークができるところは全部やる。それを企業の“当たり前”にする。小・中学校のオンライン授業も当たり前にする。そういう覚悟が、まだまだのように思います。1か月で終わると思って、一時的に頑張るといふ感じだと絶対に反動が来ます。これを新しい慣習や制度にして、そうすることがつらくないところまでしないとダメです。今まで遅れていた技術導入、働き方改革を一気にすすめるチャンスにするという意気込みが必要です。リスクがあるところで働いている医療関係者や、スーパーの店員、配送業、ゴミの収集の人たちの分まで、外出を抑制できる人は全面的にするという共同体の意識がもっと必要でしょう」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響が長期化する中、ナッジの活用で、私たちの行動が変わり、これまでの「当たり前」も大きく変わっていく。

公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク

## 7月3日運営委員会(Zoom 会議) 議事次第

2020年7月3日(金) Zoom 入室 13:15 開始 13:30~16:00

(運営委員メンバー：濱田・一政・片桐・古池・若笠・岡部・木村・佐藤・石丸・葉木・高木・三澤・畑)

(事務局メンバー：澤野委員長・天寺・濱口)

進行役：事務局 天寺 会議録：事務局 濱口

1. 出席メンバーから一言挨拶（音声確認もかねて）
2. 濱田代表挨拶
3. 災害救援ボランティア推進委員会活動報告 澤野委員長
  - 配付①澤野委員長\_防災事業報告 2020.7.3
  - 配付②澤野委員長\_運営委員会への報告 2020.7.3
4. 報告・議案など
  - 4.1.1. 寄付金報告（2020年）
 

金額 115,800円 件数：16件（6/19 振込記録まで）  
→災害対応積立金とSL活動金へ。
  - 4.1.2. 九都県市合同防災訓練について（報告）
    - 1) 埼玉県会場（川口市・幹事会場）
      - 配付③高木 SL\_第41回九都県市合同防災訓練（埼玉県会場）資料 4-1
    - 2) 千葉県会場（野田市）
      - 配付④片桐 SL\_九都県市千葉県会場 第1回全体会議資料①
  - 4.1.3. 「災害時でも温かいごはんを 非常用炊出し袋を使ったレシピ集」の完成
 

作成は三澤 SLと平田 SL、事務局天寺が担当。  
頒布価格 200円/1冊（送料別）  
※非常用炊出し袋 300円/1袋 22食分  
ニュースレター・HP等で広報開始。

#### 4.1.4. 「感染防止ガウン制作にかかる寄付金活動」について

- 配付⑤濱田代表\_地域新型コロナウイルス感染防止用の防止ガウン制作募金活動（表紙付き）
- 配付⑥濱田代表\_感染防止ガウン計算書 02

#### ★前回からの経過報告（濱田代表）

#### ★名称候補の検討について

- ア) 感染防止ガウン（初動期代用品）
- イ) 避難所運営者のスタッフ着（感染軽減用）
- ウ)

#### 4.1.5. 資料提供・話題提供

- 参考①葉木 SL\_新型コロナ より響く

#### 5. 次回予定

月 日（金）運営委員会 13：30～16：00 Zoom 会議

9月4日（金）理事会 10:00～12:00（予定）・・・九都県市千葉県会場第2回全体会議と重なる

以上